

「富岡製糸場と絹産業遺産群」が世界遺産登録された場合の 経済波及効果について

一般財団法人群馬経済研究所
主任研究員 松下 均

～要 約～

1. 「富岡製糸場と絹産業遺産群」は、生糸の大量生産を実現した「技術革新」や世界と日本の技術の「交流」に貢献した産業遺産であり、「富士山－信仰の対象と芸術の源泉」に続き、来年の世界遺産登録が期待されている。
2. これまでに群馬県や関連市町を中心にこれらの遺産の保全活動が進められてきた。世界遺産となった折には「世界の宝」を未来に引き継ぐため、より一層の保全努力が求められる一方で、観光客増加に伴う経済波及効果が発生するとみられる。
3. 「富岡製糸場と絹産業遺産群」の世界遺産登録が実現した場合、当研究所の推計によれば、観光客数は45万人増加し1年間で75万人に達すると予想される。
4. 観光客増加によるプラスの影響は、宿泊業や土産品販売など県内の様々な産業に及び、生産の拡大や従業員の所得増加につながるものと推測される。県内へのこうした経済波及効果は、当研究所の推計では1年間で34億円が見込まれる。
5. 内訳をみると、宿泊業や飲食業などのサービス業への経済効果が13億円に上り、次いで、鉄道・バスなどの交通関係は7億円、土産品販売などの商業が3億円となった。また、観光客に直接関係のない製造業などの業種にも幅広く経済効果が及ぶとみられる。
6. 今後は県内における経済効果を高めるため、①観光客数増加を目指した見学箇所の拡充や現地解説員の説明スキルの一層の向上等による遺産の魅力アップ、遺産周辺を歩いて回れるまちづくりの推進、行政や関連団体による情報発信力の強化、②1人あたり観光消費額の増加を狙った土産品や地域グルメの開発や充実、顧客ニーズに合わせた観光ルートの提案強化、③土産品や食における地産地消の推進、などの取り組みが求められよう。
7. 「富岡製糸場と絹産業遺産群」の世界遺産登録により遺産の保全が推進され、地域には経済効果や知名度向上などのメリットがある。認知度の低さや外国人観光客の少なさなどが懸案事項である本県にとって、世界遺産登録はこれらの課題を打破する千載一遇のチャンスであることから、行政や関連団体以外にも広く県民の理解促進と支援が期待される。